

「内訳書数量入力システムLITE」と「内訳書作成システム」の機能比較表

対応欄が×の機能は、内訳書数量入力システムLITEでは使えません。
内訳書作成システムでは、下記の機能がすべて使えます。

メニュー		対応	機能説明	説明頁*1	
内訳書作成	ファイル	新規作成	内訳書ファイル	内訳書ファイルを新規に作成します。	P.1-3
		元請共通費ファイル	×	共通費計算の結果を保存するファイルを作成します。	P.4-9
		下請け共通費ファイル	×	共通費計算の結果を保存するファイルを作成します。	P.4-23
		Ver.8.9形式ファイル	×	旧バージョン形式の内訳書ファイルを作成します。	P.1-3側注
		内訳書の合成		複数の内訳書ファイルを合成して、新規に内訳書を作成します。変更設計が入力されている内訳書を合成することもできます。	P.2-5
		開く		内訳書または元請共通費・下請共通費ファイルを開きます。	P.1-7
		閉じる		内訳書または元請共通費・下請共通費ファイルを閉じます。	P.1-11
		ファイル管理画面		作業中のパソコンとサーバーのRIBCファイルを管理します。	P.22
		上書き機能		内訳書または元請共通費・下請共通費ファイルを保存します。	P.1-11
		名前を付けて保存		ファイルを保存する場所や名前を指定して、内訳書・元請共通費または下請共通費ファイル保存します。	P.1-10 P.4-9 P.4-23
		プロパティ		内訳書編集作業に関する設定、内訳名称・共通費情報ファイルの参照先設定、共通費計算に関する設定等を行います。	*2
		端数処理		内訳書や代価表の端数処理を設定します。	P.1-48
		システムファイル		複数のパソコンで作業環境を共有するときに使用します。共有できる情報は、公開情報および端数処理の情報と、共通費情報ファイル、内訳名称ファイルです。	P.19
		印刷書式設定		印刷する内訳書や印刷項目等を選択します。	P.5-2
		印刷プレビュー		印刷イメージを表示します。	P.5-16
		印刷		内訳書を印刷します。	P.5-17
		参照フォルダの設定		[開く]コマンドで最初に表示するフォルダを設定します。	P.1-7側注
		最適化		編集作業などで増大した内訳書ファイルのサイズを減らします。	P.1-11
		内訳書作成システム終了		内訳書作成画面を終了します。	P.1-3
	編集		切り取った行を元に戻す		明細行削除のundo機能です(実行直後のみ有効)。
行のコピー/移動/削除				各内訳書の行を、コピーまたは移動、削除します。複数行を指定することもできます。	P.1-41 P.1-42 P.1-43
ワープロ行の挿入				内訳書画面に行を挿入し、名称等を入力します。	P.1-25 P.3-7
単価表からの挿入				複合単価表から項目を選択し、名称や単価、単価コード等を登録します。	P.1-26 P.3-8
小計行の挿入				内訳書の任意の位置に小計行を挿入します。	P.1-40
別紙明細行の挿入				別紙明細呼び出し行(一式)を挿入して、別紙明細を登録します。	P.1-32
代価表行の挿入				細目別内訳等に代価表の呼び出し行を挿入し、新規に代価表内訳を登録します。	P.1-34 P.3-13
コメント行の挿入				内訳書の任意の位置に空白行を挿入します。名称欄などに文字を入力することもできます。	P.1-40
仕分け再利用行の挿入				スリーブ費の計算等において、配管類等の仕分け用の名称と、対象となる工事の金額を内訳書に挿入します。	P.2-8
名称の挿入				内訳名称ファイルを参照して、メニューから、種目名称または科目名称、中科目名称を選択します。	P.1-38
削除				行を削除します。	P.1-43
別紙明細の作成				ワープロ行を別紙呼び出し行に変更します。	P.1-33
別紙明細の解除				別紙呼び出し行をワープロ行に変更し、別紙明細を削除します。	記載なし
代価表の作成				ワープロ行を代価呼び出し行に変更し、新規に代価表を作成します。	P.1-36
代価表の解除				代価表呼び出し行をワープロ行に変更します。代価表とのリンクは解除されますが、代価表のデータ本体は削除されません。	記載なし
分割名称の設定				共通費計算のための機能で、細目別内訳を一般的な工事と専門的な工事に仕分けしたりするときに使用します。	P.4-6
仕分けの設定				細目別内訳の各行に仕分け名称を設定します。(例えばスリーブ費を計算するときは、配管工事の各行に配管類等の仕分け用の名称を設定します)	P.2-10
複合単価ファイルの再設定				単価表からの挿入で登録した任意の行を選択して、参照先の複合単価ファイルを別のファイルに変更します。	P.2-20
部分別区分設定				設定すると、SIBCの「建築一部分別」の入力シートに自動的に金額を取り込むことができます。	P.8-3
部分別区分解除				部分別区分を解除します。	P.8-4側注
表示		単価表からの上書き		単価表からの挿入やワープロ入力で登録した行に、単価表から選択した名称、摘要、単位、単価を上書きして、金額欄を更新します。数量欄は実行前の値が残ります。	P.1-47 P.3-35
		代価表画面		代価表一覧画面に切り替えます。もう一度実行すると、内訳書画面に戻ります。	P.3-2
		表紙		内訳書の表紙を編集します。	P.1-21
		概要		内訳書の概要を編集します。	P.1-22

「内訳書数量入力システムLITE」と「内訳書作成システム」の機能比較表

対応欄が×の機能は、内訳書数量入力システムLITEでは使えません。
内訳書作成システムでは、下記の機能がすべて使えます。

メニュー		対応	機能説明	説明頁*1	
内訳書作成	表示	仕分け金額	スリープ費の計算等において対象となる工事の名称と合計金額を表示します。	P.2-7	
		部分別集計画面	× 部分別内訳の金額集計画面を表示します。	P.8-5	
変更設計	変更設計	部分別区分欄表示	細目別内訳または別紙明細画面に部分別区分欄を表示します。	P.8-3	
		変更設計	原設計内訳書を変更1回に設計変更します。変更設計の内訳書の場合は、変更回数を+1します。	P.2-35	
		変更設計数量入力	数量の入力方法を最終数量か増減数量から選択します。	P.2-35	
		変更回数	変更回数を選択すると、設計変更の履歴を確認できます。	P.2-37	
		変更解除	今回設計の数量をすべて削除して前回設計に戻します。変更1回の内訳書で実行したときは原設計に戻ります。	P.2-37	
		出来型設計	最終数量の内訳書に変更し、書式を原設計にします。	P.2-37	
		出来高	出来高	出来高設計画面	× 画面表示を出来高内訳書に切り替えます。もう一度実行すると、通常設計画面に戻ります。
出来高設計入力	× 出来高の入力方法を率入力か金額から選択します。 (出来高数量は数量欄に入力します)			P.2-38	
出来高設計解除	× 出来高数量・率・金額をクリアして、通常の内訳書に戻ります。			P.2-39	
出来高金額控除内訳書作成	× スライド条項の減額となる場合の運用を補助するための機能で、控除分の金額を算出します。			P.2-40	
ツール	ツール	検索	名称または別紙番号、代価表番号を使って、細目別内訳を検索します。	P.1-23	
		使用している内訳書への移動	代価表を呼び出している細目別内訳または別紙明細別明細画面が移動します。	P.3-6	
		内訳用一次単価抜き取り	細目別内訳および別紙明細、代価表内訳から、見積単価の項目を抽出して表示します。なお、抽出した項目を外部ファイル(ExcelまたはCSV形式)へ出力し、外部アプリケーションで編集した単価を内訳書へ書き戻すこともできます。	P.2-25	
		単価/数量/乗率/ゼロ検索	細目別内訳および別紙明細、代価表内訳から、単価欄または金額欄がゼロの項目を抽出して表示します。	P.1-24	
		オプション	全体再計算	すべての項目を積み上げ直して、金額欄を最新の状態にします。	P.1-46
オプション	オプション	単価総入れ替え	単価表からの挿入で登録した行の名称や単価欄を、複合単価ファイルから一括処理で再取得します。 また、参照する複合単価ファイルを変更したり、ファイルの場所を変更したりする場合にも使用します。	P.2-14	
		リナンバーリング	別紙明細	編集作業により欠番や順不同が生じた別紙番号を内訳書の順にふり直します。	P.1-33
			代価表	編集作業により欠番や順不同が生じた代価表番号を代価表一覧画面の順にふり直します。	P.3-25
		重複代価表の整理と変換	内訳書に同一の代価表がないかを検索して抽出する機能です。内訳書を合成した後等に使用します。	P.3-26	
		一括クリア	選択により、内訳書の以下の項目を一括クリアします。 数量/単価・金額/別紙明細/代価表/備考欄に入力した文字/見積分類・見積コード/工事区分・分割名称	P.2-12	
		外部ファイル出力	内訳書または元請共通費、下請共通費ファイルに登録された項目を外部ファイル(ExcelまたはCSV形式)へ出力します。	P.2-33	
		交換書式ファイル読込	コスト研ホームページに掲載されている内訳書数量データ交換書式の機能を支援するツールです。 他のアプリケーションで作成した内訳書数量データ交換書式用のファイルを、RIBCの内訳書ファイルに変換します。	P.8-8	
		内訳書歩掛り選択	内訳書歩掛り選択	メンテナンス設定ファイル	× 旧単価コードで登録された内訳書の単価を単価総入れ替え機能で最新の単価にするときは、本機能でメンテナンス設定ファイルを作成します。
ファイル形式の変換	Ver.9以前の内訳書ファイルを現行形式に変換します。			P.2-3 *3	
仕様・方式・数量の入力	SIBCで行う作業のうち、仕様・方式・数量の入力はRIBCでも行うことができます。			P.8-2	
バックアップ	バックアップフォルダに保存された、内訳書、元請共通費または下請け共通費の各ファイルを参照することができます。			P.1-2	
ウインドウ	上下に並べて表示			[ファイル]-[開く]メニューで開いた複数の内訳書ファイル等を上下に並べて表示します。	記載無
	左右に並べて表示			[ファイル]-[開く]メニューで開いた複数の内訳書ファイル等を左右に並べて表示します。	記載無
	重ねて表示			[ファイル]-[開く]メニューで開いた複数の内訳書ファイル等を重ねて表示します。	記載無
ヘルプ	機能解説			「内訳書作成システム操作マニュアル」「内訳書作成入門編」のPDF形式のドキュメントを参照することができます。	P.25
	バージョン情報			お使いのRIBCのバージョンを確認できます。	P.25
内訳書歩掛り選択					お手元に歩掛りファイルがある場合は、このプログラムを使って複合単価の内訳を参照することができます。また、代価表画面に歩掛り画面の内容をコピーすることもできます。

「内訳書数量入力システムLITE」と「内訳書作成システム」の機能比較表

対応欄が×の機能は、内訳書数量入力システムLITEでは使えません。
内訳書作成システムでは、下記の機能がすべて使えます。

メニュー		対応	機能説明	説明頁*1
内訳名称保守			内訳書の編集画面で参照する以下の名称メニュー画面を編集することができます。 種目/科目・中科目/部分別区分/仕分け/抜き取り	Part6
共通費情報設定		×	共通費情報ファイルに登録されている率や算定式を編集したり、追加したりするプログラムです。	P.4-36
営繕積算システム RIBCツール	コンバータ(MS-DOS版)	×	MS-DOS版RIBCで作成した複合単価ファイル等のデータファイルをWindows版RIBCで開ける形式に変換します。	記載無
	データ変換コード対応TBL出力		コスト研ホームページに掲載されている内訳書数量データ交換書式の機能を支援するツールです。 他のアプリケーション用の単価コードとRIBCの単価コードの対応テーブルを作成するときに使用します。	P.8-7
	金抜き複合単価印刷ツール		単価欄がマスク表示の複合単価表を印刷します。	*3

※ 共通費計算に関する補足

- RIBC LITEでは、内訳書ファイルに必要な設定を行うことは可能ですが、元請共通費ファイルを作成して共通費の計算を行うことはできません。
- 別途計算した共通費を工事内訳画面に直接入力することは可能です。

*1 Ver.10操作マニュアルの説明頁

*2 P.1-6、P.1-14、P.1-27側注、P.1-30、P.1-33、P.1-37側注、P.1-39、P.1-47、

*3 「Ver.10操作マニュアル補遺」に補足説明あり